オーディオ実験室収載

モーツアルト盤を聴く(119)(HP 収載)
－最新アナログシステムでの試聴(119)－

１．始めに

前報(118)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

２．モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 を使用します。

試聴システムは仮想アースに加えて、スピーカーアキュライザーSPA-7 が加わっています。さらにスピーカーアキュライザーの接続をバナナプラグに置き換え、電解コンデンサーを追加し、電磁波吸収テープ NRF-005T をバナナプラグに巻いています。

音源は、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回はオペラの曲です。

ORFEO　S 085 844 K

モーツアルト　LA FINTA SEMPLICE

Leopold Harger 指揮 Mozarteum Orchesta Salzbug

３．モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

ORFEO 盤ということで、TELDEC、正相、第 4 時定数 High で聴いていきます。

LA FINTA SEMPLICE というのは、オペラ・ブッファで「偽りのばか娘」と訳されています。LP の 4 枚組での長い曲です。

オペラ・ブッファらしく、明るく楽し気な展開が進みます。アリアもレシタティーブも合唱も、定位がしっかり聴き取れ、間接音も含めたステージ感がリアルです。

ソプラノからバスまでの声の質感がよくでており、バックのアンサンブルやチェンバロの控えめでありながらクリアーな音質で歌唱を支えています。

４．まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレーク、Crystal E、スピーカーアキュライザーなどの総合的な効果により、歌唱の質感や定位など、オペラの収録の上記の盤の特徴がよく把握できます。

以上/